

ようやく夏が来た！大山『山開き』2019

2019年7月27日

降り続く長雨にウンザリし通しだった今年の梅雨も、ようやく終わりが見えてきた27日の土曜日、大山に夏を告げる『山開き』が開催されました。

これは日本橋小伝馬町の講中「お花講」に、江戸時代中期の元禄年間より連綿と300年以上も継承される儀式です。

江戸時代までは、7月27日から8月17日までの夏山期間中しか許されなかった、山頂本社の石尊大権現に至る阿夫利神社下社の登拝門を開けるもので、白い行衣を着た61人の善男善女が開扉の儀式を執り行い、安全登山を祈願しました。



落語の世界さながらに講元さんを先頭に「散華、散華、六根清浄」と掛け念仏を唱えながら隊列を整え、下社への85段の階段を進みます。

元禄年間から続く『お花講』の後からは、平成になって組織された建築士さん達の講が続きます。



普段は片開きになっている登拝門の前で、開扉の神事が厳かに執り行われました。見たことはありませんが、江戸時代にもきっと同じように行われていたのでしょうか？

それとも仏式で僧侶が読経して開門したのでしょうか？



お花講が管理する鍵を開けて登拝門を全開させました。
それでも江戸時代まで山頂は女人禁制とされ、蓑毛越からの途中にある女人禁制の碑までしか登れませんでした。
記録に残る女性の初登頂者は1860(慶応2)年のイギリス人です。



山頂本社へ続く114段の急な石段を登ります。
今は式典だけなので山頂までは上りませんが、戦前までは夜明け前の早暁に儀式を行い、ご来光を仰ぐために山頂まで本当に上がったそうです。
現在のお花講の皆さんも、式典の前の夜明け前に山頂まで登って来られます。



無事に式典を終え本殿の前で記念写真をニッコリ。
来年は東京五輪開催を記念して、江戸時代さながらに日本橋から60kmの道のりを徒歩で大山へ来られるそうです。
今から実現が楽しみです。